

国語 (2学年)

1. 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。

2. 評価の観点・方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国に言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。
定期考査、小テスト、ワークシート	定期考査、小テスト、ワークシート、表現活動	行動観察、ワークシート、表現活動、問題集、知識・技能の習得状況、思考・判断・表現の習得状況

3. 授業について

- ①課題に対して自分の考えをもち、他者に伝える。
- ②他者の考えを受け入れる姿勢をもち、自分の考えと比較検討して自分の考えを深める。
- ③知識と技能を習得し、自身の言語活動に活用する。

4. 家庭学習・学習のポイント

★基礎を定着させるために

- ①授業での活動に積極的に取り組む。
- ②授業内容をワークシートや問題集などで復習する。
- ③漢字や文法は問題集に繰り返し取り組んで定着させる。
- ④初出語句は意味を調べ、文章を音読する習慣をつける。

★さらに発展させるために

- ①授業で学んだことを他教科での活動や日常生活の場面にも活用する。

5. 各学年の学習内容

漢字、言葉の働き、話し言葉と書き言葉、語彙、文や文章、言葉遣い、情報と情報との関係、情報の整理、伝統的な言語文化、書写、読書、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと

6. その他

- ①忘れ物をしないように、教科連絡を聞き逃さない。
 - ②授業では積極的に発言し、他者の意見もしっかりとメモを取るなど集中して授業に取り組む。
 - ③ペアワークやグループワークにも積極的に取り組む。
- ★進路に向けて
- ①授業で学んだ視点を普段の読書に活用し、入試における初見の文章を読み取る力を身に付ける。
 - ②入試で出題される作文課題を念頭に入れて、授業での作文課題に取り組む。

社会 (2学年)

1. 目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を養い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

2. 評価の観点・方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べ、まとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
ペーパーテスト(知識の概念を問う問題)、プリントの記述、小テスト	ペーパーテスト(論述問題や選択問題など)、プリントの記述、レポートの作成	プリントやレポートの記述、生徒による自己評価、知識・技能、思考・判断・表現の習得状況

3. 授業について

- ①プリントを使用して授業をします。積極的にメモを取り、授業後は必ずファイリングするようにしてください。
- ②授業中に使用したスライド資料は社会科のクラスルームに掲載するので、復習などで活用してください。
- ③レポート課題やワークの提出があります。提出期日に提出できるように、計画的に取り組みましょう。

4. 家庭学習・学習のポイント

★基礎を定着させるために

- ①教科書の太字やプリントで記入した用語は、その言葉をただ覚えるだけでなく、説明できるようにしましょう。
- ②ワークを解き、理解できていない部分を繰り返し復習しましょう。
- ③地理は、気候・地形・産業のつながりを意識してみましょう。歴史はおおまかな流れをつかむようにしてみましょう。

★さらに発展させるために

- ①2年生の内容だけでなく、1年生の時の内容もしっかりと復習しましょう。
- ②eライブラリなど、ワーク以外の問題にも積極的に取り組みましょう。

5. 各学年の学習内容

【地理的分野】 <ul style="list-style-type: none">・日本の地域構成・世界と比べた日本の地域的特色・日本の諸地域・身近な地域の調査	【歴史的分野】 <ul style="list-style-type: none">・近世の日本・近代の日本と世界
---	---

6. その他

①授業では、最後に授業の内容をまとめる時間があります。授業終了後、提出し確認しますので、しっかりと書けるよう授業に取り組みましょう。話し合い活動では自分の考えをしっかりと持ち表現しましょう。また、他者の意見もしっかりと聞いて、より自分の考えを広げていきましょう。

★進路に向けて

- ①社会科は復習が大切な教科です。まずは今から1年生の内容をしっかりと復習しておきましょう。自分の苦手なところを見つけるためにも、日頃から復習することが大切です。
- ②社会科の入試問題は、様々な資料や身に着けた知識を組み合わせる内容がとても多いです。そのため、教科書やワークの資料の読み取りなどを積極的に取り組みましょう。
- ③都立入試の過去問に触れてみましょう。傾向をつかむことで、どのように学習したらよいか明確になります。

数学 (2学年)

1. 目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、正負の数や方程式などの基礎的な理解と技能を習得し、論理的な考察力や数学を生活に活用しようとする態度を養う。

2. 評価の観点・方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現している。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
定期考査、小テスト	定期考査、小テスト、ワークシート	行動観察、問題集、ワークシート

3. 授業について

- ①課題に対しての自分の考えを構成する。
- ②例題の解き方から、練習問題を何問も解き、解き方を学ぶ。
- ③間違った問題は、間違ったところを分析し、次回は間違えないようにする。

4. 家庭学習・学習のポイント

★基礎を定着させるために

- ①問題集や教科書の練習問題などを繰り返し解く。
- ②eライブラリを活用する。

★さらに発展させるために

発展的な問題や、入試問題に取り組んだりする。

5. 学習内容

①式の計算 ②連立方程式 ③1次関数 ④平行と合同
⑤三角形と四角形 ⑥確率 ⑦データの活用

6. その他

- ①忘れ物をしない。
- ②主体的に問題演習に取り組む。
- ③積極的に発言をしたり、大事なことをメモをするなど集中して取り組む。

★進路に向けて

・1年次の復習をする。問題集を繰り返し解く。過去問を解き、自分の苦手な分野を把握し、克服する。

理科(2学年)

1. 目標

自然の事物・現象に進んで関わり、目的意識をもって観察、実験を行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに、理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

2. 評価の観点・方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、観察・実験での過程や結果を的確に捉え、科学的に探究する技能を身につけている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察・実験を行い、事象や結果を分析・解釈し、表現している。	自然の事物・現象に進んで関わり、それらを科学的に探究するとともに、事象を人間生活との関わりで見ようとする。
テスト、実験レポート、ワークシート 行動観察	テスト、実験レポート、ワークシート ノート	実験レポート、ワークシート、問題集 ノート

3. 授業について

- ①自然の事物・現象について基本的な原理や法則を理解する。
- ②実験・観察を安全に行い、結果を的確に分析し記録する。
- ③日常の事象を科学的に捉えるための応用力を身につける。

4. 家庭学習・学習のポイント

★基礎を定着させるためには、

- ①理科の用語や科学的な法則を覚える。
- ②授業内容をノートやワークシートで振り返る。
- ③問題集を繰り返し解く。すべての問題が解けるようにする。
- ④授業の復習のためにeライブラリーを活用する。

★レベルアップするには

- ①発展的な問題に取り組んだり、身近な科学現象の中から自分が調べたいことなどを探求する。教科書にある「学びを活かして考えよう」を活用する。

5. 学習内容

- | |
|---|
| ①化学変化と原子・分子
②生物のからだのつくりとはたらき
③天気とその変化
④電気の世界 |
|---|

6. その他

- ①理科室の授業の時は、早めに移動する。実験のときは手が汚れることもあるのでタオル等を持参する。
- ②実験・観察のときは、班で協力して準備・片付けを行う。
- ③忘れ物をしないようにする。
- ④積極的に発言をしたり、大事なことをメモをするなど集中して取り組む。

★進路に向けて

- ①1年の復習をする。問題集を繰り返し解く。過去問を解き、自分の苦手な分野を把握し、克服する。

音楽 (2学年)

1. 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。

2. 評価の観点・方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表現している。	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・共同的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
実技、実技テスト、定期考査、ワークシート	ワークシート、定期考査、行動観察	行動観察、ワークシート、定期考査

3. 授業について

- ①音楽から感じたことなど、周りの人の考えを聞き、自分の考えを深める。
- ②音楽の特徴を、音楽を形作っている要素をもとにとらえられるようにする。また、その音楽がはぐくまれた歴史的背景や文化についても興味をもち理解していく。
- ③こんな表現をしたいという思いや意図をもって、積極的に音楽表現に取り組む。

4. 家庭学習・学習のポイント

★基礎を定着させるために

- ①音符、休符や音楽の記号や用語を理解し、楽譜をある程度読んでいこう。
- ②授業で扱った曲に出てくる音楽の記号や用語は、曲の中での使われ方を通して、実感をもって理解しよう。

★さらに発展させるために

- ①興味をもったさまざまな音楽に触れ、特徴や音楽から感じたことを考えてみよう。

5. 各学年の学習内容

歌唱(「翼をください」など)、器楽(アルトリコーダー、箏)、創作、鑑賞(「運命」など)

6. その他

- ①できないからとあきらめず、粘り強く取り組む姿勢、意欲を大切にしよう。
- ②授業を欠席したら、自分でワークシートをもらいに來る、何をやったか先生に聞く等、自分でフォローしよう。

★進路に向けて

- ①1回1回の授業を大切に、日々の授業に積極的に取り組むことが大事です。

美術 (2学年)

1. 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や題材の良さ、美しさを感じ取り、表現の技法を身につける。
- (2) 発想や構想を練り、形や色彩を工夫して、自分の思いを創造的に表現・鑑賞する。
- (3) 美術を愛好し、心豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

2. 評価の観点・方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。
作品、定期考査、ワークシート	アイデアスケッチ、定期考査、ワークシート	行動観察、鑑賞レポート、ワークシート

3. 授業について

- ①色や形、材料、光などの性質や素材などが感情にもたらす効果などを理解する。
- ②造形的な特徴などをもとに全体のイメージでとらえる。
- ③用具の習得: 材料や用具の特性を生かし、意図に応じた表現方法の工夫をする。
- ④制作の順序を考え、見通しをもって創造的に表す。
- ⑤参考資料や対象、事象から発想、構想し、イメージする。
- ⑥よさや美しさを感じ取り、自分の作品に生かしたり伝える。
- ⑦作者の意図や心情を感じ取り、創造的な工夫を考え、美意識を高め、感じ方を深める。
- ⑧社会や他者との関りを意図しながら活動する。

4. 家庭学習・学習のポイント

★基礎を定着させるために

- ①授業のめあてを意識して鑑賞、制作に取り組む。

★さらに発展させるために

- ①生活の中で感じたことや感動したことを自分の表現の引き出しとして蓄える。

5. 各学年の学習内容

- | |
|--|
| ・観光ポスター制作(構図、レタリング、絵画)
・人体模型製作
・木彫 |
|--|

6. その他

- ①基本的に美術室で授業を行うため、早めに移動し準備をして待つ。
- ②限られた時間で作品完成を目指すため、制作に集中して取り組む。
- ③作品や道具、備品は大切に扱う。
- ④忘れ物をしない。
- ⑤自分の作品は自分で制作の力で制作する。

★進路に向けて

- ①毎回の授業に集中して取り組む。自分の力を統合し最適な表現を選択する。

保健体育 (2学年)

1. 目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す。

2. 評価の観点・方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けている。	運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をしようとしている。
定期考査、実技試験、提出物、行動観察	定期考査、実技試験、提出物、行動観察	実技試験、提出物、行動観察

3. 授業について

- ①けが、事故を防ぐために準備運動・集団行動は徹底する。けがや事故が起こってしまった時は、すぐに知らせる。
- ②見学者は可能な限り授業の手伝いや補助、アドバイスを行う。また、授業の内容を見て活動を理解する。
- ③仲間と準備、片付け、活動を協力して行う。

4. 家庭学習・学習のポイント

★基礎を定着させるために

- ①体育分野の実技については、実技書とタブレットで基本用語や種目の特性を理解する。
- ②体育分野の体育理論については、教科書を中心に基本用語を理解する。
- ③保健分野は教科書を中心に基本用語を理解する。

★さらに発展させるために

- ①授業で実践した内容を、自分の生活に生かすこと。

例) 授業で実施したスポーツを観戦する。

5. 各学年の学習内容

【体育分野】 ※天候、会場、他学年との調整によって()内の種目に変更になる場合があります。
体づくり運動(体ほぐしの運動、体の動きを高める運動)、器械運動(跳び箱運動)、陸上競技(短距離走・リレー、長距離走、走り幅跳び)、水泳(クロール、平泳ぎ)、球技(バレーボール、バスケットボール、ソフトボール)、体育理論(運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全)

【保健分野】

環境と健康、傷害の防止

6. その他

- ①一生懸命に活動に取り組む。
- ②安全に取り組む。

★進路に向けて

- ①「する」だけではなく、「する・みる・支える・知る」という多角的な視点をもって、地道に取り組みましょう。

技術 (2学年)

1. 目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を身に付ける。

2. 評価の観点・方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活や社会で利用されている技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとしている。
定期考査、製作品	行動観察、ワークシート、レポート、実習、製作品、定期考査	行動観察、ワークシート、レポート

3. 授業について

- ①チャイム前に授業の準備(教科書やファイル、材料等)や教室移動をして、着席しておく。
- ②実習においては、説明を聞き、教員の指示が出てから、安全に配慮しながら集中して取り組むようにする。
- ③レポートやワークシート等の提出物は、記入した上で、期限を守って提出する。
- ④実習作業後は工具や材料等の片付けと掃除を行う。

4. 家庭学習・学習のポイント

★基礎を定着させるために

- ①授業中に使用しているノートやプリントを忘れずに記入し、基本用語や技術の特性を理解する。
- ②実習においては、説明を聞き、工具や工作機械を安全に使用する技能を身につける。

★さらに発展させるために

- ①自分の身の回りや生活の中で使われている技術の工夫点を見つけ、自身の学習に活かす。
- ②より良い生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、技術の改善点を自分自身で考える。

5. 各学年の学習内容

・生物育成 生物育成(作物、動物、水産生物、森林)の歴史や育成技術、環境要因について、土壌の構造、肥料について、育成計画や育成記録の方法、栽培実習(秋:ラディッシュの容器栽培)
・エネルギー変換 エネルギー変換の歴史、エネルギー変換効率について、電気の基礎知識、発電や送電の仕組み、電気機器の安全な利用、様々なエネルギー変換の仕組み、図記号&回路図のかき方、動力伝達、電子部品の特徴、実習(テーブルタップの製作、ダイナモラジオの製作:はんだづけ)

6. その他

- ①授業が週に1回しかないので、授業に忘れ物をせず、集中して取り組んでください。

★進路に向けて

- ①技術において学習した「ものの見方や考え方」、「問題を解決する力」をより良い生活の実現や持続可能な社会の構築に活かしていきましょう。

家庭 (2学年)

1. 目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を身に付ける。

2. 評価の観点・方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
定期考査、作品	定期考査、ワークシート、レポート、実習、作品、行動観察	行動観察、ワークシート、レポート

3. 授業について

- ①チャイム前に授業の準備(教科書やファイル、材料等)や教室移動をしておく。
- ②実習においては、説明を聞き、教員の指示が出てから、安全に配慮しながら集中して取り組むようにする。
- ③レポートやワークシート等の提出物は、記入した上で、期限を守って提出する。

4. 家庭学習・学習のポイント

★基礎を定着させるために

- ①授業で使用するプリントは忘れずに記入し、定期考査前にはしっかりと見直す。
- ②実習においては、調理用具や裁縫用具を安全に正しく使用する技能を身につける。

★さらに発展させるために

- ①学習したことと、自分の実生活を結び付けて、実践してみる。
- ②より良い家庭生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、改善点を自分自身で考える。

5. 各学年の学習内容

B衣生活 (衣服のはたらきと手入れ、衣服の選択と着方、布を用いた作品で生活を演出、持続可能な衣生活)
B住生活 (人間にとっての住まい、生活に必要な空間、自然とともにある住生活、安全で健康的な住生活、持続可能な住生活)
C消費生活・環境 (家庭生活と消費、購入・支払いと生活情報、消費者被害と消費者の自立、持続可能な社会に向けて)

6. その他

- ①被服室・調理室の授業の時は、早めに移動する。裁縫道具や、調理実習の用具を必ず持参する。
- ②実習のときは、班で協力して準備・片付けを行う。
- ③積極的に発言をしたり、大事なことをメモをするなど集中して取り組む。

★進路に向けて

- ①中学校での三年間だけでなく、卒業後、そしてその後の将来に向けて、よりよい生活の実現を目指し、生活を工夫し創造する力を身に付けていくことが大切です。

英語 (2学年)

1. 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことと言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

1. 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
2. コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
3. 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2. 評価の観点・方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・英語の音声や語い、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 ・英語の音声や語い、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。	・英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・「思考・判断・表現の活動」に対して、見通しを立てて改善と工夫をしながら粘り強く取り組んでいる。
ペーパーテスト、聞く、読む、話す、書くことに関する課題、パフォーマンステスト など	ペーパーテスト、聞く、読む、話す、書くことに関する課題、パフォーマンステスト など	課題への取り組み、ペーパーテスト、パフォーマンステスト など

3. 授業について

- ① 単語、文の発音を積極的にいきましょう。そして、音読にも積極的に取り組みましょう。
※ 単語の発音ができなければ、聞いたり伝えたりすることが難しくなります。読むスピードと聞くスピードは比例します。
- ② 単語のスペルや新たな表現を視覚的な教材を用い表現します。文の語順を意識し表現しましょう。
- ③ 指定された場面や状況に合わせて、今まで学んだ表現を活用して、意欲的に表現しましょう。

4. 家庭学習・学習のポイント

★基礎を定着させるために

- ① 授業等で学習した英文を3回音読しましょう。その時、意味を考えながら音読しましょう。
- ② ワークシートやワークブック等を利用して新しい表現や、すでに学習した表現を使い表現しましょう。

★さらに発展させるために

- ③ 英検等の検定試験を活用し、実力を養いましょう。

5. 各学年の学習内容

動詞の過去形、「look[sound]+形容詞」の文、Can you ~? を使った依頼、動名詞、不定詞の各用法、接続詞that、be going to、助動詞will、Shall I ~? やWould you ~? など注文のやり取り、There is ~、不定詞の形容詞的用法、副詞的用法の文、「S+V+O」、「S+V+O+O」の文、「have to+動詞の原形」、不定詞に代わるItの文、May I ~?、「how to+動詞の原形」、Could you tell me the way to ~?、助動詞、接続詞、比較級や最上級、「want+人+不定詞」、「make+人・もの+形容詞」、受け身の文

6. その他

- ① 授業中、クラスメイトと協力し合い、英語力を高めましょう。

★進路に向けて

- ① 英検等の検定試験を活用しましょう。